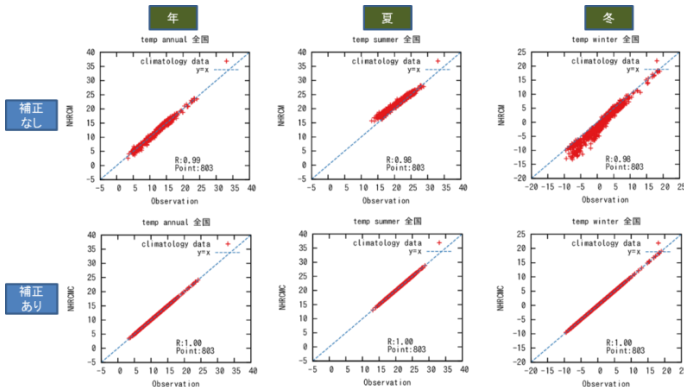
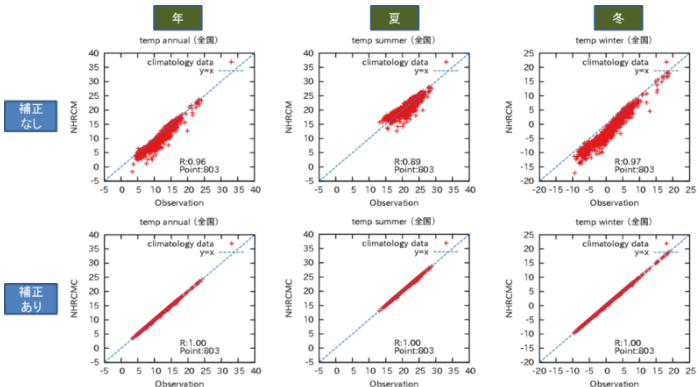
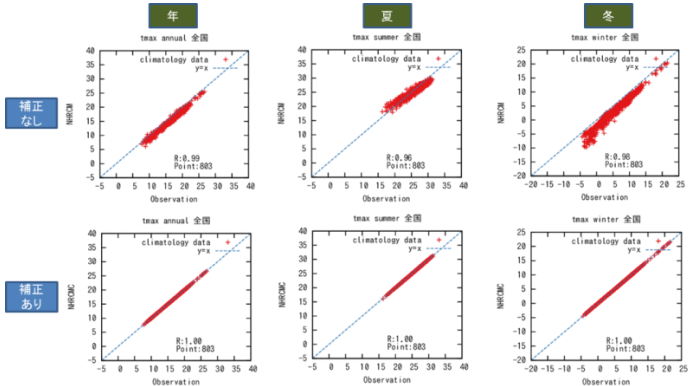
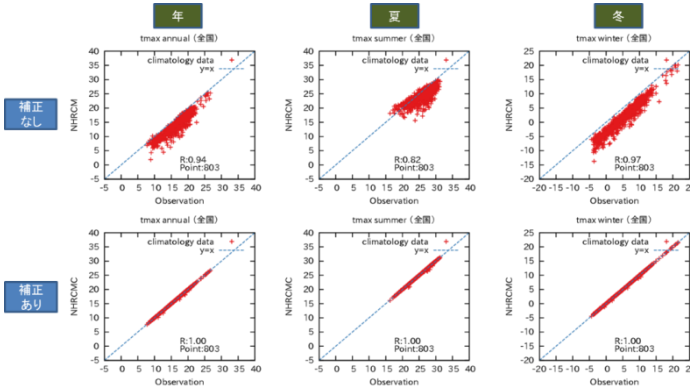


「地球温暖化予測情報第9巻」データセット解説書（令和3年2月改訂） 正誤表
（修正箇所を赤字下線で示す。図表については修正箇所の記載を省略。）

修正日	対象	正	誤
2022 年 3 月 15 日	P.37	5.1 気温要素 (1) 平均気温 モデル値（補正なし）には、<u>夏（6～8 月）は北日本に正のバイアスがあり、冬（12～2 月）は北日本と東日本に負のバイアスがある。</u>モデル値（補正あり）では、ばらつきはほとんどなく、また、バイアスは解消される（図 5.1）。  図 5.1 全国アメダス地点における 20 年平均した年平均気温の観測値とモデル値の散布図	5.1 気温要素 (1) 平均気温 モデル値（補正なし）には、<u>ほぼ全ての地域の年平均で観測値との関係にばらつきがあり、また、負のバイアスがある。季節別でも、夏（6～8 月）を除いて全国的に負のバイアスがあり、特に冬（12～2 月）の負のバイアスが大きい。</u>モデル値（補正あり）では、ばらつきはほとんどなく、また、バイアスは解消される（図 5.1）。  図 5.1 全国アメダス地点における 20 年平均した年平均気温の観測値とモデル値の散布図

		全国のアメダス地点における 20 年平均（1980～1999 年平均）した年（左）、夏（6～8 月；中）及び冬（12～2 月；右）の平均気温と各地点に対応するモデル値（上段：補正なし、下段：補正あり）との関係を示す。アメダス地点はこの期間のデータが 8 割以上ある地点のみを利用。横軸は観測値、縦軸はモデル値。図中右下の数値は R：相関係数、Point：プロットした地点数を示す。 （注：図 5.1 と同じ図を掲載している解説書 P.52（資料 1）、概要版 P.5-6 についても差し替えを行っている）	全国のアメダス地点における 20 年平均（1980～1999 年平均）した年（左）、夏（6～8 月；中）及び冬（12～2 月；右）の平均気温と各地点に対応するモデル値（上段：補正なし、下段：補正あり）との関係を示す。アメダス地点はこの期間のデータが 8 割以上ある地点のみを利用。横軸は観測値、縦軸はモデル値。図中右下の数値は R：相関係数、Point：プロットした地点数を示す。
--	--	--	---

修正日	対象	正	誤
2022 年 3 月 15 日	P.38	(2) 日最高気温 モデル値（補正なし）には、<u>年平均、秋及び冬の全地域、春の東日本太平洋側及び西日本、夏の西日本太平洋側及び沖縄・奄美</u>で負のバイアスがあり、平均気温に比べてバイアスの絶対値が大きい。平均気温と同様に冬の負のバイアスが他の季節に比べて大きい。モデル値（補正あり）では、ばらつきはほとんどなく、また、バイアスは解消される（図 5.2）。 (略)  図 5.2 全国アメダス地点における 20 年平均した日最高気温の観測値とモデル値の散布図 全国のアメダス地点における 20 年平均（1980～1999 年平均）した年（左）、夏（6～8 月；中）及び冬（12～2 月；右）の最高気温と各	(2) 日最高気温 モデル値（補正なし）には、<u>ほぼ全ての地域の年平均及び全季節に</u>負のバイアスがあり、平均気温に比べてバイアスの絶対値が大きい。平均気温と同様に冬の負のバイアスが他の季節に比べて大きい。モデル値（補正あり）では、ばらつきはほとんどなく、また、バイアスは解消される（図 5.2）。 (略)  図 5.2 全国アメダス地点における 20 年平均した日最高気温の観測値とモデル値の散布図 全国のアメダス地点における 20 年平均（1980～1999 年平均）した年（左）、夏（6～8 月；中）及び冬（12～2 月；右）の最高気温と各

地点に対応するモデル値（上段：補正なし、下段：補正あり）との関係を示す。アメダス地点はこの期間のデータが 8 割以上ある地点のみを利用。横軸は観測値、縦軸はモデル値。図中右下の数値は R：相関係数、Point：プロットした地点数を示す。

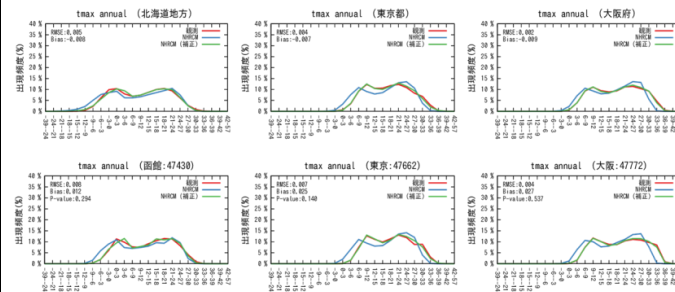


図 5.3 都道府及び地点別の最高気温の頻度分布

上段は左から順に北海道、東京都、大阪府、下段は左から順に函館（北海道）、東京（東京都）、大阪（大阪府）における 1980～1999 年の日最高気温の階級相対出現頻度（3℃ごと）。赤線：観測値、青線：モデル値（補正なし）、緑線：モデル値（補正あり）。図中左上の数値は RMSE：平方根平均二乗誤差、Bias：観測値とモデル（補正あり）の 20 年平均値の差、P-value：K-S 検定の P 値を示す（RMSE、P-value の詳細については資料 2 を参照）。

地点に対応するモデル値（上段：補正なし、下段：補正あり）との関係を示す。アメダス地点はこの期間のデータが 8 割以上ある地点のみを利用。横軸は観測値、縦軸はモデル値。図中右下の数値は R：相関係数、Point：プロットした地点数を示す。

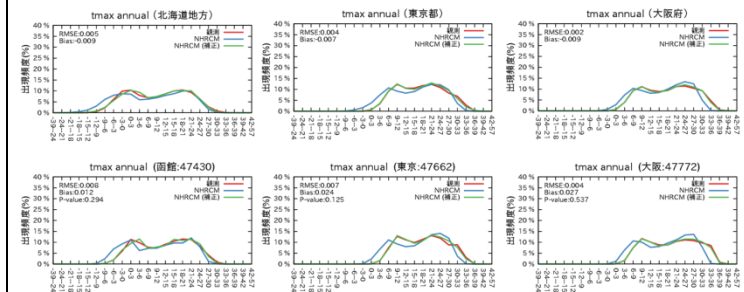
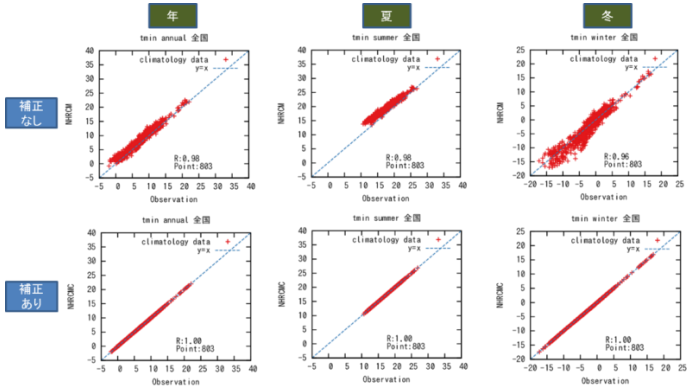
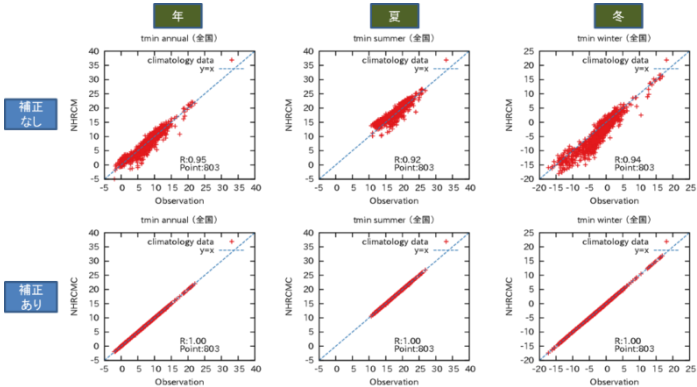


図 5.3 都道府及び地点別の最高気温の頻度分布

上段は左から順に北海道、東京都、大阪府、下段は左から順に函館（北海道）、東京（東京都）、大阪（大阪府）における 1980～1999 年の日最高気温の階級相対出現頻度（3℃ごと）。赤線：観測値、青線：モデル値（補正なし）、緑線：モデル値（補正あり）。図中左上の数値は RMSE：平方根平均二乗誤差、Bias：観測値とモデル（補正あり）の 20 年平均値の差、P-value：K-S 検定の P 値を示す（RMSE、P-value の詳細については資料 2 を参照）。

修正日	対象	正	誤
2022 年 3 月 15 日	P.39	(3) 日最低気温 モデル値（補正なし）について、<u>年平均及び各季節（冬を除く）ではほぼ全ての地域に正のバイアスがある。冬の北日本日本海側、東日本日本海側では負のバイアスがある。</u>モデル値（補正あり）では、バイアスは解消される（図 5.4）。 (略)  図 5.4 全国アメダス地点における 20 年平均した最低気温の観測値とモデル値の散布図 全国のアメダス地点における 20 年平均（1980～1999 年平均）した年（左）、夏（6～8 月；中）及び冬（12～2 月；右）の最低気温と各地点に対応するモデル値（上段：補正なし、下段：補正あり）との関	(3) 日最低気温 モデル値（補正なし）について、<u>全ての地域の年平均では観測値との関係にばらつきはあるが、概ね比例関係にあり、バイアスは小さい。季節別では、夏の北日本で正のバイアス、冬の北日本と東日本で負のバイアスがある。</u>モデル値（補正あり）では、バイアスは解消される（図 5.4）。 (略)  図 5.4 全国アメダス地点における 20 年平均した最低気温の観測値とモデル値の散布図 全国のアメダス地点における 20 年平均（1980～1999 年平均）した年（左）、夏（6～8 月；中）及び冬（12～2 月；右）の最低気温と各地点に対応するモデル値（上段：補正なし、下段：補正あり）との関

係を示す。アメダス地点はこの期間のデータが 8 割以上ある地点のみを利用。横軸は観測値、縦軸はモデル値。図中右下の数値は R : 相関係数、Point : プロットした地点数を示す。

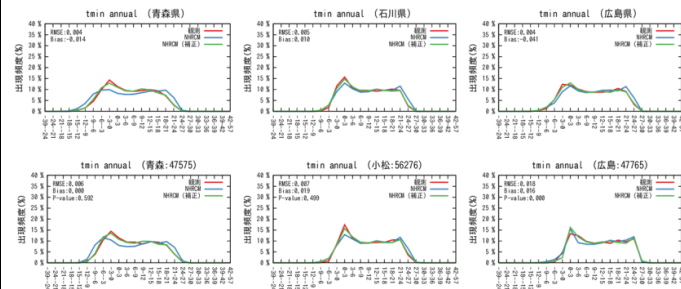


図 5.5 県及び地点別の最低気温の頻度分布

上段は左から順に青森県、石川県、広島県、下段は左から順に青森（青森県）、小松（石川県）、広島（広島県）における 1980～1999 年の日最低気温の階級相対出現頻度（3℃ごと）。赤線：観測値、青線：モデル値（補正なし）、緑線：モデル値（補正あり）。図中左上の数値は RMSE：平方根平均二乗誤差、Bias：観測値とモデル（補正あり）の 20 年平均値の差、P-value：K-S 検定の P 値を示す（RMSE、P-value の詳細については資料 2 を参照）。

係を示す。アメダス地点はこの期間のデータが 8 割以上ある地点のみを利用。横軸は観測値、縦軸はモデル値。図中右下の数値は R : 相関係数、Point : プロットした地点数を示す。

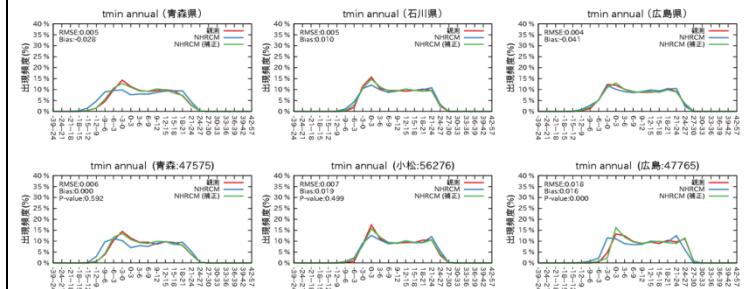


図 5.5 県及び地点別の最低気温の頻度分布

上段は左から順に青森県、石川県、広島県、下段は左から順に青森（青森県）、小松（石川県）、広島（広島県）における 1980～1999 年の日最低気温の階級相対出現頻度（3℃ごと）。赤線：観測値、青線：モデル値（補正なし）、緑線：モデル値（補正あり）。図中左上の数値は RMSE：平方根平均二乗誤差、Bias：観測値とモデル（補正あり）の 20 年平均値の差、P-value：K-S 検定の P 値を示す（RMSE、P-value の詳細については資料 2 を参照）。